



神戸薬科大学発 研究者の未来

ミライ処方箋⁺

Vol.1

+ ————— +
Kobe Pharmaceutical University
+ FUTURE'S PRESCRIPTION +
+ ————— +

研究は人を大きくする

— 私も研究者でした —



みなさん、「研究」という何を想像しますか。「研究」とは「新しいことを創り出すこと」「未知のことを明らかにすること」などといわれています。

私が「研究」というものに魅力を感じ始めたのは、大学4年生の時でした。配属された研究室で先生方が研究について楽しく語り、生きがいを持って従事されていることを体感した時です。その内容は、ほとんど理解できませんでしたが、理解したいと考え、大学院に進学し、研究の扉の前に立つことを選択しました。研究室では、他大学との交流が盛んで、先生方も夜遅くまで研究について議論していました。それを見ていると、先生方を夢中にさせる研究とは、そんなにおもしろいものなのかとさらに引き込まれました。

研究室では、光のエネルギーを用いる興味深い研究をしており、それを応用してこれまで人間の手で合成されたことのない天然有機化合物の合成に挑戦しました。全合成が成功に至るまでには多くの山があり、それらをひとつずつ制覇し、目的の化合物を合成できたときは感無量で、より研究のとりこになっていきました。

私は「研究の魅力」をこう考えています。目標を達成するためには、仮説を立てますが、①より独創性の高い仮説を思いついた時②自分の仮説を証明できた時③目的を達

成するまで数々の難関があったとしても、最終的にゴールにたどり着いて未知の部分の明らかにすることができた時など、経験した者でしか味わえない達成感があります。

このようなすばらしい経験をみなさんも体験してみませんか。本学には、優秀な先生方がたくさんおられ、博士課程の4年間では知識以外の多くのことを学ぶことができます。また、授業料相当の奨学金が支給され、さらにリサーチ・アシスタントとして年間数十万円が給付されるなど、修学支援体制も万全です。博士課程に進学して、探求心や好奇心を思う存分発揮し、未知のことに挑戦し、サイエンス領域に新たな道をつけていただきたいと思います。

大学院修了後は、研究力を身につけた薬剤師として医療の発展に貢献する、あるいは、薬剤師や高度・専門職能人を育成する教育・研究者になる、企業での創薬研究に携わるなど、多種多様なフィールドで活躍していただけると考えています。

これからも本学は、薬学の研究力を身につけた薬学博士をより多く輩出し、社会に貢献できる大学を目指していきます。

神戸薬科大学
学長 宮田 興子

Okiko
Miyata

学長 宮田 興子

神戸女子薬科大学大学院(現神戸薬科大学大学院)薬学研究科修士課程修了。薬学博士。講師、助教授を経て、2008年に薬品化学研究室教授。2016年より、特別教授として薬学総合教育支援に携わるとともに、同大学同窓会長、学校法人神戸薬科大学理事を兼務する。2019年4月神戸薬科大学学長に就任。第3回有機合成化学協会関西支部賞、平成28年度日本薬学会学術貢献賞、平成28年兵庫県功労者表彰(教育功労)などを受賞。

研究が好き。

好きなことを仕事にする人生は楽しい。

人々の健康を守る薬に携わる研究を

この先も続けて行きたいから

自分で描くミライの処方箋。

興味のある研究を続けたい。
研究への挑戦をしないで後悔するより
今できることを思いっきりできる道は、
大学院進学だった。

高瀬 ひるか さん

→
P03



確実に自己成長に
つながる環境が大学院。
長いように感じる4年間は、
夢の実現を手繰り寄せるための
貴重な毎日の連続になる。

二木 恵里佳 さん

→
P04



INDEX

P03

PRESCRIPTION + 01

北里大学 薬学部
放射性同位元素研究室 助教
高瀬 ひるか さん

P04

PRESCRIPTION + 02

製薬会社 研究員
二木 恵里佳 さん

P05

Field of research

神戸薬科大学大学院薬学研究科の研究分野
大学院募集要項

P06

Support system

研究を続けるための支援制度

どのような道も苦労は必ずある。
少しでも多くのことを吸収し、一瞬一瞬の
その場でしか得られない経験を今後の糧へ。

高瀬 ひろかさん

神戸薬科大学 大学院 薬学研究科
薬学専攻(薬品物理化学講座)博士課程修了

「たった一つのアミノ酸が変異してしまうだけで、疾患が引き起こされ、ミクロでの変化が体全体に影響を与える」

このことに強い興味を抱き、研究を続けていきたいという考えで大学院へ進学をしました。大学院では、研究を続けるだけでなく、企業や学会主催の勉強会に参加したり、研究費の申請や学会発表を通して研究内容を紹介したりする中で、研究室外の方々との交流する機会も増えました。

そういった中で、客観的に研究の全体像をとらえること、先を見通した研究計画を立案することの重要性和難しさを強く感じたのが、研究費の申請です。研究の独自性を見出すために研究の背景や周辺知識を深く理解することが必要となり、研究計画や仮説に無理や矛盾はないか、研究の意義をどのようにして伝えるの



かを考える必要があります。研究と想像すると、大学生の時は実際に機械を使って測定することに焦点を向けがちでしたが、そこに至るまでの過程が重要であるということを研究費の申請によって改めて見つめ直すことができました。

博士課程修了後、これまでの研究テーマにかかわるような内容で同じ世界にとどまるのではなく、自分自身がどこまでやれるのか試してみたいと思い、これまでの研究内容を見返し、今後の展望や教育への考えを見つめ直したことで進みたい方向についての考えが固まってきたようにも思います。

現在、大学教員として、研究を進めると同時に、卒業研究のサポートや学生実習を担当しています。さまざまな経験が得られるようサポートしていくことで、広い視野を持った医療人の育成に少しでも貢献していきたいと思っています。また、自身の研究面では、研究環境が変わったことで異なる分野の研究へと視野を広げることができたため、独自の研究分野を確立し、研究成果を多くの人に発信していけるように今後も努力していきます。

INSTITUTE



北里大学 薬学部
放射性同位元素
研究室 助教

興味のある研究を続けたい。

研究への挑戦をしないで後悔するより

今やりたいことを思いっきりできる道は、

大学院進学だった。



3万分の1への挑戦。 これから創薬の実現へ向けて 自分自身への期待も膨らむ。

二木 恵里佳さん

神戸薬科大学 大学院 薬学研究科
薬学専攻(薬品化学講座)博士課程修了

大学入学当時、薬剤師になるというのが私の夢でした。ところが、薬品化学研究室に入り、世界で誰も創ったことのない化合物を創ったり、教科書に載っていないような新しい反応が開発できる研究の世界に興味を沸いたりするよう変化していきました。そんな中で病院実習や薬局実習を経験し、新たな薬を創ることで患者さんに貢献したいという気持ちも芽生えるようになりました。

そのころから製薬会社で研究員になることが目標となり、それをかなえるために大学院進学を決意しました。6年制薬学部を卒業後すぐ就職する道もありましたが、医薬品合成の成功確率は3万分の1と決して簡単なものでなく、有機化学の知識や実験スキル、また研究の遂行能力を身につけることで、その可能性を少しでも上げ



て、製薬会社へ入りたいと考えました。

大学院では、研究者同士のディスカッションが創薬研究において必要不可欠でした。最初は研究室内で行っている勉強会で質問するなど小さなことからスタートしましたが、次第に大きな学会でも自分の意見を述べ、研究者の方々とディスカッションできるようになりました。

いよいよ製薬会社で創薬研究の研究員としてのスタート地点に立ち、これからは、有機化学の研究者以外の方々とも積極的にディスカッションを行い、医薬品の開発につなげていければと思っています。

6年制薬学部を卒業後、大学院に進学する学生は決して多くないため、将来に対する不安な気持ちや経済的負担もあると思います。しかし、進学したからこそ挑戦できた研究もたくさんありますし、今は負担を軽減することのできる制度も整っており、確実に自己成長につながる環境が大学院にはあります。

製薬会社で創薬を目指す自分自身への期待も膨らませつつ、患者さんが待つ医薬品にたどり着けるよう、これからも研究者として研究を続けていきたいと思っています。

COMPANY



製薬会社 研究員

確実に自己成長につながる環境が大学院。

長いように感じる4年間は、

夢の実現を手繰り寄せるための

貴重な毎日の連続になる。



神戸薬科大学大学院薬学研究科の研究分野

薬学教育6年制に対応した薬学研究科 薬学専攻 博士課程(4年制)は、チーム医療の現場において薬剤師として、または創薬研究・医薬品開発を担う質の高い研究者として活躍できる人材の養成を目指しており、下記の研究分野(講座)で構成しています。

薬化学講座	微生物化学講座	医薬細胞生物学講座	生化学講座
薬品化学講座	病態生化学講座	生命有機化学講座	薬剤学講座
薬品物理化学講座	薬理学講座	機能性分子化学講座	製剤学講座
生命分析化学講座	臨床薬学講座	衛生化学講座	医療薬学講座

大学院募集要項

大学院博士課程(薬学専攻) 一般1次・社会人特別選抜1次

出願・試験期間 夏期

募集人員 3名(社会人特別選抜入学試験を含む)

大学院博士課程(薬学専攻) 一般2次・社会人特別選抜2次

出願・試験期間 冬期

募集人員 3名(2次募集は若干名、社会人特別選抜入学試験を含む)

大学院についての
詳細な情報は
webにてご覧ください



大学院教育
の概要



大学院入試



教員・
研究室一覧



研究を続けるための支援制度・博士課程

奨学金制度

神戸薬科大学大学院奨学生制度 (第一種) (給付)

金額 _____

600,000円(年額)

応募資格等 _____

学業、人物ともに優秀であること。

1年次生 入学試験を基準とする

2~4年次生 総説講演での発表内容を基に採用するかを
審議する。

採用期間・募集人員等 _____

採用期間:最短修業年限

採用数:3名(入学定員と同じ)

備考 _____

奨学生としての資質を満たしているかを審査するため、
毎年願書を提出しなければならない。これまでは、資格を
満たせば採用数3名を超えても採用されている。

学内業務の補助的な従事による経済的支援制度

リサーチ・アシスタント (RA) 制度

金額 _____

500,000円(年額)

応募資格等 _____

①博士課程に在籍している者で、在籍年数が4年を超えない者。

②RAの業務が、自己の学業の進展を妨げないと判断される者。

③ティーチング・アシスタントに応募しない者。

1年次生 入学試験を基準とする。

2年次生 学会発表1回(博士課程在籍中)。

3年次生 報文1報(共著者でよい)かつ学会発表1回(博士課程在籍中)。

4年次生 報文2報(共著者でよく、そのうち1報は投稿予定あるいは投稿中であり、修了時まで印刷
公表または掲載許可が得られると講座主任が判断した場合も認める)かつ学会発表2回
(博士課程在籍中)。

採用期間・募集人員等 _____

委嘱期間:月単位で1年以内

採用人数:博士課程に在籍する学生数(社会人大学院学生を除く)

備考 _____

RAに採用される者は博士課程修了時に学位が取得できる状態にあることをその目安とする。学位
規程施行細則第11条の2より「学位論文の基礎となる報文は、原則として2報以上(そのうち1報以
上は欧文の報文)であることを必要とする」を目安にする。応募資格等に記載の報文は、学位論文の
基礎となる報文でなくとも認めるものとする。

ティーチング・アシスタント (TA) 制度

金額 _____

1,000円(時給)

応募資格等 _____

リサーチ・アシスタントに応募しない者。

大学が指定する日までに「学部学生実習指導
補助申込書(TA用)」を提出した者。

採用期間・募集人員等 _____

博士課程において、委嘱期間及び人数の決まり
はない。

備考 _____

TAに従事する大学院生は、当該大学院生が所
属する講座の教員又はそれに関連する教員が
担当する学部学生実習を担当することを原則
とする。この場合、実習担当教員の欠員の有無
は問わない。

大学院博士課程における在学期間の特例 (早期修了制度) について

大学院博士課程では、特に優れた研究業績を上げたと認められる大学院生
に対して在学期間の特例(早期修了制度)があります。

海外学会発表費用の補助

大学院博士課程では、原則として年1回
大学院生の海外学会発表費用の補助を
行っています。





神戸薬科大学 大学広報委員会

〒658-8558 兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1

TEL 078-453-0031 (代)

<https://www.kobepharma-u.ac.jp/>